

青梅のにじ

〈発行〉

日本基督教団 隠退教職ホーム
にじのいえ信愛荘
運営委員会 須藤 繁

〒198-0052 東京都青梅市長淵2-687
電話：0428-22-2283 FAX：0428-22-2317
Eメール：nijinoiesinaiso@wish.ocn.ne.jp

振替口座番号 00120-3-358467

加入者名：にじのいえ信愛荘



在荘の皆さまへ 感謝を込めて

「隠退教師を支える運動」推進委員長 森 啓一

聖名を賛美いたします。在荘の皆さま、本紙をご覧の皆さま、お達者でいらつしやいますか。

私の父は森政雄と申しまして、大阪の作り酒屋の一人息子として生まれながら、キリスト教に触れて「酒を作って売る家業を継ぐのは絶対イヤ」と言いだし、大阪高等工業の醸造科を卒業していたのに、同志社大学文学部神学科に入り直しました。

はじめは阪神地区で牧師をしていましたが、神戸女学院で聖書講義の時間に「我々は肉体は日本国民として天皇の命に従うが、魂は神様のものだから……天皇の命には従い得ないこともある」と言ったことがきっかけになって、生徒らが騒ぎだして職員会の問題になり、ここもやめねばならぬこととなった」（本人が書いたものによる）。

そして1943年8月に千葉県の市川三本松教会へ赴任します。父はその教会を隠退後、1998年に召されました。

息子が「隠退教師を支える運動」の推進委員長を仰せつかつていることを知ったら、何と言うでしょうか。

それはともかく、この運動（以下「支える運動」）は北海教区の旭川豊岡教会壮年会で始まり、1978年の第二〇回教団総会で、全教区運動へと踏み出してから40年が経とうとしています。その間、献金総額はほぼ一貫して右肩上がりが増えてきましたが、2013年度に8千万円台に載せた後、4年連続して減少を続けており、また運動参加教会・伝道所数は2017年度で941と、11年連続で50%台に留まっていて、これまた淋しい思いを避けられません。

「支える運動」推進委員会規程第二条には、「この運動は教団年金資金増額を主たる目的と

し……」とあり、推進委員会では教団年金局にできるだけ多額の「年金協力金」をお捧げしようと「クリスマス祝金」を大幅に絞り込んで（原資がそこしかありませんから）2016年度には8千万円を拠出しました。しかし教団年金は教団年金制度に加入されていない先生方が視野の外に置かれていたので、推進委員会の中でも反対論があり、2017年度はまた「クリスマス祝金」を少し増額する方向で配分先を見直しています。

そんなこんなで、100円献金の配分についてもいろいろなご意見がある中、2016年5月に深山荘長と当時の鈴木功男運営委員長が教団内の事務所までお出でくださり、「にじのいえ信愛荘」の現状、特に財務状況についてご説明を受け、「100円献金」の目的にふさわしいものと判断して推進委員会にお諮りし、100万円を増額して年額200万円に踏み切った次第です。

増額幅としては本当に僅かですが、いろいろな意見を踏まえての結論ですから、ご了承ください。さいますようお願いいたします。

（東京・梅ヶ丘教会員）

クリスマス メッセージ

すべての民に与えられる 大いなる喜び

隠退教師 清瀬 弘毅

ルカ福音書

2章10節

聖書は神の創

造と人間の救い

について啓示された唯一の正典
であります。



神は人間をご自分の像に似せて造られたと記されています。しかし、人が神に背き罪を犯した時から、神の似像としての栄光を失ってしまった。

そして、すべての人が死ぬべき存在になってしまったのです。さらに、人間の罪は自然界にも及び、被造物は虚無に服し滅びへの隷属の中にあると、聖書は告げています。

そのような人間の世界に、神は独り子なるイエス・キリストをお遣わしになりました。

それは、主イエスの十字架と復活の出来事を通して、罪と死の支配に捕らわれている人間に、喜びと永遠の命への回復をさせ

てくださるためでした。

この出来事は、天地創造の御業に匹敵する……いや、それ以上の神の御業だと言えます。

そればかりか、神の御業が完成される時、即ち新しい天と地が出現される時、私たち卑しい人間をも、キリストと同じ栄光の姿に変えてくださると、聖書は約束してくださっています。これ以上の大きな恵みと救いがあるでしょうか。

遠い2000年以上の昔、主イエスは尊い天の御座(みくら)を捨てて地上に降られ、弱い人の子として、ベツレヘムの馬小屋で生まれ給いました。人知れず、この世に降られた神の子の誕生を、天の御使いが歓喜の声で賛美しました。



「すべての民に与えられる大きな喜びをあなたがたに伝える。」

(口語訳ルカ福音書2章10節)

そして、この賛美の声を初めて聞いた人々は羊飼いであった。当時、彼らは貧しく、社会の中で最も低い身分の人たちと言われているのです。しかし、彼らにこそ神の偉大な御業の始まりが告げられたのであります。

旧約聖書イザヤ書61章1節に、貧しい者への福音が予言されています。

「主はわたしに油を注ぎ主なる神の霊がわたしをとらえた。わたしを遣わして貧しい人に良い知らせを伝えさせるために。」

打ち砕かれた心を包み捕らわれ人には自由をつながれている人には解放を告知させるために」

将に、この予言がキリストによって実現されたのです。

翻って、今日の私たちの社会は、誰もが勝者の道を望んでいる。学問の分野、スポーツの分野、芸術の分野、あらゆる所で競争社会が現出している。

そして、勝者には惜しむこと

なく称賛の拍手が送られる。けれども、社会の片隅で、不幸な境遇に耐えて生きている人々が多くいることを、私たちは忘れてはならないと思います。ほんの一瞬、光輝く天の御使いが歌った賛美は、誰に届けられたのか、私たちキリスト者は、もう一度思い起こしたいのです。

イエス・キリストの恵みの福音は、恵みにあらざる世界の隅々にまで響く大いなる喜びの歌声でありました。

最後に、私は聖書を通して教えられる大切なメッセージを思います。それは偉大な神の救済史の一役を担った、一人の乙女の信仰に教えられるということです。

人間の理性を超えた神の御計画を受容し、「お言葉どおり、この身に成りますように。」(ルカ福音書1章38節)と告白したマリヤの信仰です。彼女の信仰によって、神はこの人間の歴史に大きなうねりと変革を起こされたのです。

私たちキリスト者も、力弱く無に等しい者ではあっても、信仰により、聖霊によって義とされた者として、最後までキリストの福音の証人として生きていきたいものであります。

クリスマス の思い出

遠い日々のこと

大崎 敬子



クリスマスの
思い出というと
すぐに思い起こ

すのが、まだクリスマスの何たるかも知らなかった子どもの時のことです。島根の、教会もない片田舎の非キリスト者の家庭に生まれ育った私にも、両親はクリスマスプレゼントの喜びを味わせてくれました。幼少の頃毎年のように、朝起きてみると枕元に美しい人形が置いてあって大喜びしたことを今でもよく覚えています。

もう一つは小さくらの時、母の知人の信徒の方が、自宅のクリスマス会に招いてくださったことです。その時聞いた「もろびとこぞりて」の讃美歌が印象深く心に刻まれました。

さらにもう一つ忘れがたいのは、小6の時の素敵な女性の音楽の先生が「きよしこの夜」の歌

詞を英語で教えてくださったこととです。英語で歌えるのが嬉しくて、すぐに覚ええました。今でも2番までしつかり歌えます。その先生は、卒業の時にも「また会う日まで」を教えてくださいました。私はそれを讃美歌とも知らず、お別れの歌として歌っていました。それが讃美歌であることとを知った時、あの先生はキリスト者だったに違いはないと思いました。自分の職業を通して一杯の証をするという、キリスト者のあるべき姿を示してくださったのだと思います。

それから時を経て、教会へ行くようになって、その年のクリスマスに受洗し、その時初めて「人間の贖い主」の誕生を祝う真実のクリスマスを経験しました。それ以来今日まで、教会の方たちと沢山のクリスマスを祝ってきました。いずれも恵みと祝福に満ちた忘れ難いクリスマスです。しかしそれらにも増して、キリスト者になるずっと以前の遠い日々のことを、ことさらに懐かしく思い起こすのは、そのセピア色になった心の原風景の中に、やがてみ言葉の種が蒔かれ

る日のために、さまざまな人の手を通して、私という土地を耕し始めてくださった神様の恵みの御手の跡を、垣間見る思いがするからでしょうか。

(にじのいえ信愛荘在荘)

沖縄の楽しいクリスマス

稲垣 善子



私は大分県出身で、沖縄では高原教会に5

年、平良川伝道所に22年仕えた。平良川は11年の無牧の間、信徒は散らされ、残りの5人で私を迎えてくださった。

その1年目にクランツを作ろうとしたが、沖縄には杉の葉がないので、お盆の上に4本のローソク立てを置き、庭で切ったハイビスカスの枝を飾った。

楽しかったのは教会学校であった。土曜日の午後にゆっくり遊ばせて、礼拝後におやつ作りをしたところ、毎週20人余りが集まった。

「クリスマス子ども会」には40人位が来た。サンタさんの服は

百円ショップで買ってきて、中学生に着せた。

クリスマスが近づくと、高齢の人から必ず聞く。「私たちが子どもの時、今頃になると米兵がトラック一杯にお菓子を積んで、道で子どもに会うと、お菓子をバラまいてくれた」と。

沖縄の教会の祝会は、どこも一品料理の持ち寄りである。これはおそらく、基地の中の教会から来たアメリカ文化であろうと思う。

沖縄の教会のクリスマス祝会では、必ず琉球讃美歌が歌われる。沖縄の人は音楽性に優れていて、無数の民謡があり、それに信仰の歌詞をつけたものや、現行讃美歌を方言にしたものなど多くある。

そして祝会の最後は、カチャーシーである。沖縄の人々の喜びの踊りで、三線の音に合わせて全員で踊る。どの人も満面の笑顔で楽しいクリスマスの祝会であった。

(にじのいえ信愛荘在荘)



追悼



故 吉田 トシ郎
2018年9月20日召天

ただ主の御計らい

大石 貞子

あのトシ先生への追憶は、多くの方々の胸に溢れ、この稿を埋めるにふさわしい皆様のあることを思えば、僥倖なこととためらいつつ筆をとっています。

半世紀も前の時代、女性教職も少ない中、トシ先生の印象と云えば、やや骨太で強い信念の方でしたが、反面実に情あつき牧会者として、温かく人々の傍らに寄り添ってくださる方！孤高なる96年を全うされたことは、流石と心から敬意を表します。それは先生の出自やあの戦時下、神学校が存続し、その渦中での真剣勝負、初陣の滝川で女性の樺山牧師の厳しい薫陶に与かれたことなどを伺う中で、教職者としての生涯の基が築かれたと思います。

1953年、先生は自由な在野の方として、函館時代の恩師

塚原要牧師在任の目黒の行人坂教会に出席中でした。教会では中高生をはじめ皆さんが、まっすぐに先生の姿勢に引き寄せられ、私は遂にその追っかけ代表？で今日迄の65年を導かれ交わりを許され、姉とさえ慕う幸いをいただきました。

松沢教会や銀座教会の、ややお粗末だった居室で一夜を明かす日もありました。いわば大東京の表街道を歩まれた先生が、最後の使命として、小さな浪江伝道所に赴かれたこと、それが労苦にも勝る喜び、晩年を満たす思い出づくりに至っていたことも語ってくださいました。こうして近く、遠くと別れてはまた、再会を繰り返し互いの晩年を南房総で!!。他の先生方共々それは「にじのいえ」での恵まれた黄金期であったと、懐かしく想起します。

私は、夫が千葉市内の千葉南教会の開拓伝道に導かれた関係で、50余年を千葉県下に留まり、トシ先生も青梅の地を経て再び千葉で、終焉を迎えられたのですが、最後まで往来を許され、殆ど会話なく、それでもニコッと嬉しそうに礼を述べられた先生との逢瀬は、正に「ただ主の御

計らい」でありまして、忘れえぬ余韻を感謝し、いつまでも抱いてと希っています。

「無垢な人の生涯を主は知っていてくださる」(詩編37編18節)

(東京・千葉南教会員)

永遠のみ国への旅立ち

飯澤 弘子

吉田トシ先生が病気のため、40年にわたる伝道牧会を退かれ、館山市の「にじのいえ」に入居されたのは31年余り前のことです。「信愛荘」との合併により、青梅の「にじのいえ信愛荘」に移られて6年、体調が悪化し千葉県富津市にある「望みの門 富士見の里」に入所して2年、静かな日々をお過ごしでしたが、去る9月20日、安らかに主のみ許に召されました。96歳2か月のご生涯でした。

10月18日職員と委員が、ご出身の函館千歳教会にご遺骨をお持ちし、海辺の絶景の地にある教会墓地で、柴田もゆる牧師により納骨式が執り行われました。お世話をするお身内がおられないため、最後まで関わりをもち、先生のご希望通りの納骨ができ

たことは感謝です。

お預かりしていた荷物・書籍の中に、函館千歳教会創立百周年の記念文集があり、出身牧師として「凡ての事相働き益となる」との題で先生が寄稿されています。先生は戦時中に献身の決意をされ、神学校に入学、学徒動員を経て戦後卒業、最初の任地は北海道でした。その後、教務教師、東京の松沢教会、銀座教会に仕えられ、最後に福島県の浪江伝道所に赴任され、書道教室を開いて指導をし、英語教室、手芸教室もあったとのこと。東日本大震災により浪江町は避難地域となり、洗礼を授けた教員が津波で亡くなったと、悲痛な面持ちで話してくださいました。ことが忘れられませんか。

千葉でのご葬儀に参列された方々から、在任中の先生のご様子が語られましたが、厳しい中にも、優しい心配りをされる先生であつたと伺いました。

先生の愛唱讃美歌は、536番「むくいをのぞみで ひとにあたえよ」でした。その通りに伝道者として精一杯走り抜かれた吉田先生、主のみ許で安らかに、とお祈り申し上げます。

(にじのいえ信愛荘運営委員)

追悼



故 土屋 恵子師
2018年10月3日召天

土屋恵子牧師を見送って

春原 鈴子

土屋恵子牧師は、10月3日、この地上の人生を終えて、天に召されました。88才でした。

自分の人生を人に動かされたくない人で、牧師の娘として生まれ育ったけれど、洗礼を受けたのは、高校卒業の年のクリスマス、19才で牧師である父からの受洗。牧師になったのは65才。いかに生きるかを求めぬいた生涯と言えるでしょう。

戦争中、青山学院高等女子部（旧制）に入学し、女子高等部（新制）卒業。6年間、私は同学年で過ごしました。土屋師は音楽室、私は図書室が居場所です、余りつき合ひはありませんでした。

1986年、56才で、東京神学大学一年に入学という報を他の方から受けました。1992年、修士課程を終え、宮島口伝

道所の牧師として15年を過ごされました。広島瀬戸内海に面したところにある小さな教会で、坂を登ってやつとたどりつきます。坂道が大変だという話を聞いたことがあります。

信徒の方も大変だったことでしょう。当時、信徒4名ということでした。今は、閉鎖されています。

2008年3月、宮島口伝道所牧師を退任、教職を隠退されました。

生涯、一人住まいを続けられました。が、隠退後、青梅の「にじのいえ信愛荘」に入荘、共同生活を始められました。日曜礼拝には、東大和教会に出席されました。比較的近い所ではありますが、荘から青梅線に出るまでが時間もかかります。

若い時から音楽が好きで、趣味が本気かという時もあつたようです。教会でも「にじのいえ信愛荘」でも、讃美歌指導に当たられました。今も天で讃美を献げておられることでしょう。

「天のみ民も、地にある者も、父、子、聖霊なる神をたたえよ」とこしえまでも（讃美歌21-29）

（西東京・東大和教会牧師）

賛美のお別れ

荏長 深山 祐

土屋恵子牧師が15年にわたる西中国教区宮島口伝道所でのお働きから隠退され、「にじのいえ信愛荘」を棲家と定められたのは十年前。荘と東大和教会と婦人矯風会の集会など、積極的に活動されました。荘ではクリスマス、イースターのため讃美歌指導をされておられました。

やがて荘生活での自立が困難になり、2年前11月特養・青梅白寿苑に入所。今夏に入り、延命治療は行わないというご本人のお考えのもと、徐々に細くなつていく食事や、誤嚥を防ぐための特別食や水分等わずかに摂り、いつ召されても不思議ではない状態が続きましたが、10月3日朝、青梅白寿苑にて召されました。87歳10カ月のご生涯でした。

白寿苑に移られてからも週に一度は、礼拝にお伺いさせていただいておりました。ほとんど会話らしいお話しもできずにおりました。

召される2週間少し前の主日礼拝後、国分寺南教会員の二人

の姉妹を白寿苑に伴い、ベッドの傍らで礼拝の時を持ちました。讃美歌を歌い、最後に、ジョン・ラター作詞作曲、日本語詞ヘルビック貴子訳の『天使のキャロル』を教会員の姉妹に歌っていただきました。

1節「星たちの輝く夜／我らのもと届く歌／高らかに讃えられし救い主、イエスの名よ／人の世にいまぞ来たる。待ちわびてた神の子よ。グローリア・イン・エクシエルシス・デオ／グローリア・イン・エクシエルシス・デオ！このよるこびのうた。」3節まで続くかなり長い曲を聴いておられました。

礼拝を終え、お別れのご挨拶をした時、土屋恵子師が「有難うございます」と絞り出すようにお礼の言葉が発せられました。私にとつて、それが土屋師の最後のお別れの言葉となりました。

召されて2日後10月5日、朝9時からの葬儀には、荘のホールに50名近くの方々とお別れの時を持ち、10時前には、師のご遺志に従い、献体の迎えの車を、全員で見送ることができました。

自己紹介

荘での生活

畠澤 廣子



私は岩手県一戸出身ですが、教会と保育園に

奉仕できましたのは、東京と愛媛県でした。

主人が召された後、ゆとりのある人生をと入荘させていただきました。

毎朝の礼拝で神を賛美し御言葉をいただき、自分がいかに罪人であるか、神の憐れみと恵みがいかに深いかを知らされます。また、皆さんと共に祈り、良き交わりの時を与えられ感謝です。

足が弱くなったら大変、歩け歩け。最初一人でしたが、いつの間にか4人になりました。散歩コースも7通りに増え、「今日はどっちにする?」「こっちにしよう」とおしゃべりしながら歩いています。

広々としたホールで奏楽の練習後、いろいろな体操をしています。月2度火曜日の午後、ビ

デオ観賞があり、今まで見逃したものの、季節のもの、話題のものなどを見せていただき感謝しております。

安心して何でも話せる友、相談できる友を、神様は与えてくださいました。また、先輩方の神様から示された、その人だけの体験を聞けるのも幸いです。

第一主日礼拝には、伊東市にある宇佐美教会に通っています。教会学校でのお話、礼拝の奏楽、午後役員会があるため、3歳の孫の子守をしております。

教会員、教会学校の子供たち、孫たちに会うのを楽しみにしています。

主に導かれて

河原 嶺子



小田原生まれの横浜育ち、高校卒業後は和文

タイピストとして東京丸の内の銀行員として。

その後、福祉施設に保母として、民間、県立合わせて10年勤務の後、献身へと導かれ、北海

道聖書学院で3年の学びと訓練を経て伝道者の道へ。

茨城県矢田部、横浜二俣川、神奈川県大磯と各教会での働きの後、当時日本基督教団の米沢興譲教会で、2年間スタッフとして訓練を受け、1997年京都府北部の綾部市にある物部教会より招聘されて、あつという間の21年。

二人の老婦人牧師を主の元に送り、今度は私自身の老いと体力の衰えを覚えて、辞任を決意。

明日にはホームレスかと思つた時、主が「にじのいえ信愛荘」へと道を開き備えてくださいました。

今は、すべての重責から解放されて、手足を伸ばして休める幸いに感謝、感謝。



2018年10月23日 にじのいえ信愛荘 在荘の皆さま

予告 チャリティコンサート

日時 2019年3月9日(土) 午後2時~4時
場所 青山学院大学 ガウチャー記念礼拝堂
出演者 関西学院グリークラブ

全日本学生コンクールで何度も金賞の栄誉を獲得した伝統あるグリークラブです。若き学生たちの歌声に力強い感動を与えられることでしょう。チケットは只今販売中

(募金小委員会 西村佳子)

財務小委員会から

財務委員長 遠矢 良男

「にじのいえ信愛荘」(以下、**荘**)は、諸教会と教会員の方々の厚い祈りと多くの献金に支えられていますが、荘の日常は荘長、施設長をはじめ、働きの人の皆さまの献身的なお働きによって成り立っています。

また、安定した持続的な運営のためには、財務的な安定性が欠かせません。荘の維持運営には、年間およそ5000万円余の経費がかかります。この費用は、荘員からの荘費と、東京・西東京教区、全国教会婦人会連合、「隠退教師を支える運動」からの協力金と、数多くの教会員や賛同者、諸教会、諸団体からの献金によって支えられています。その大半は毎年寄せられる2500万円以上の献金です。これは毎年、皆さまに感謝しつつ献金報告をさせて頂いております。

これに加えて荘員の方々の平安で快適な日常のために、施設の適切な維持管理が欠かせません。現在の施設管理上の緊急課題は、老朽化したインフラの整備です。昨年度はA棟風呂桶取

替、配管パイプの取替、エアコン修繕等を実施しました。今年度はA棟エレベーターの修繕、送迎車の買換えが必要になりました。

今夏は猛暑のためA棟廊下等の共用部は、室内で35℃以上が続き、熱中症が心配されました。この猛暑は今後も毎年予想され、共用部用大型エアコン設置が緊急の課題でした。これらを整備するには900万円を超える費用を要します。経常的な経費は何とか調達できていますが、新たな大型の施設整備の費用を捻出する余裕はないのが現状です。

しかし、今夏は荘員のお一人の特別献金のお申し出があり、この課題に対応することができました。今後10～20年程は、快適な施設設備環境が基本的に整えられました。本当に感謝でした。

個別の重要課題にはその都度対応していきますが、何よりも日常の荘運営を成り立たせていくためには、一人でも多くの方々が、荘を覚えて祈りつつ献金を継続的に献げていただくことが大切です。今後とも変わらぬお支えをお願いいたします。

(東京・富士見町教会員)

「にじのいえ信愛荘」

ご入荘へのご案内

東京郊外にある「にじのいえ信愛荘」には、長く伝道牧会に尽くされた隠退教師と配偶者の皆様、神の家族として祈りに満ちたご生活をお過ごしです。礼拝と食事を共にする以外は、自由に過ごされています。また、訪問教会との交流や、青梅の自然に親しむ行事もあります。

ご入居の際には、「身の周りのことが自分でできること」等の条件がありますが、入荘後には身体の不調の場合は、スタッフが誠実にお世話に当たり、近隣病院との連携も密にし、介護保険のサービス利用もできます。

月額食費・光熱費を含め7万円(新館)、6万5千円(旧館)です。ご相談や詳細は、どうぞご連絡(Tel・FAX・email)ください。

■ 計報

ご在荘の井柳福次郎師(87歳)は11月10日23時45分急逝されました。ご遺志により葬儀は行わず、11月14日深山荘長司式により青梅火葬場にて火葬前礼拝が執り行われました。ご遺族の上に主の慰めを祈ります。



維持献金・クリスマス献金

感謝とお願い

「にじのいえ信愛荘」のため、いつも皆様のご理解とご支援をいただきまして感謝です。

今後継続的に維持管理していくために、皆様からの維持献金とクリスマス献金のご協力をよりしくお願いいたします。

○ 献金額など不審点がありましたら、事務局までご連絡ください。

○ 事務局には振替用紙と専用の献金袋(個人)を用意していますので、ご利用の上、教会でまとめてご送金ください。

○ 献金者の中で、ご召天、転居、転会、中止の場合には、ご面倒でも、ご連絡(メールも可)いただけると助かります。

振替口座番号

001200-3-358467

加入者 にじのいえ信愛荘

TEL 0428 (22) 2283

FAX 0428 (22) 2317

Eメール

njinotesinaiiso@wish.ocn.ne.jp

莊日記



施設長 松村 誠一

●2018年5月

- 7日(月)お茶会(8名)
- 9日(水)畠澤廣子姉入莊
- 10日(木)スタッフ会
- 16日(水)監査5名
- 18日(金)運営委員会
- 21日(月)第1回クリスマス委員会
- 23日(水)東村山教会来訪(13名)
- 24日(木)井上医院健診
- 26日(土)防災設備点検
- 28日(月)相談会
- 29日(火)6月5日(火)
- 31日(木)地下タンク点検
- 2018年6月
- 4日(月)お茶会(9名)
- 7日(木)スタッフ会
- めぐみ幼稚園保護者来莊
- 10日(日)河辺伝道所との合同礼拝(40名)
- 12日(火)相愛教会来訪(5名)
- 19日(火)全国教会婦人会連合来訪
- 中央委員(4名)
- 20日(水)嶺尚師ご夫妻退莊
- 21日(木)井上医院健診
- 25日(月)誕生会・相談会

●2018年7月

- 2日(月)お茶会(9名)
- 11日(水)スタッフ会
- 19日(木)井上医院健診
- 25日(水)河原嶺子師入莊
- 30日(月)誕生会・相談会
- 31日(火)エレベーターメンテナンス契約解除(東芝エレベーター)

●2018年8月

- 1日(水)エレベーターメンテナンス契約(ジャパンエレベーターサービスグループ)
- 3日(金)風呂のレジオネラ菌検査
- 9日(木)スタッフ会
- 10日(金)千葉支区婦人委員会来訪(10名)
- 16日(木)高齢者虐待防止研修会参加
- 23日(木)井上医院健診
- 24日(金)運営委員会
- 27日(月)誕生会・相談会
- エレベーター修理・A棟エアコン設置・自動車発注

●2018年9月

- 2日(日)霊南坂教会来訪(13名)
- 4日(火)お茶会(18名)
- 6日(木)スタッフ会
- 7日(金)有料老人ホーム集団指導

20日(木)井上医院健診

吉田トシ師召天

25日(火)吉田トシ師葬儀(於富津市)

市

26日(水)誕生会・相談会

27日(木)西東京教区教区婦人委員会来訪(7名)

会来訪(7名)

28日(金)A棟エアコン設置完了

●2018年10月

- 3日(水)土屋恵子師召天
- 4日(木)庭木剪定(シルバー人材センター)
- 5日(金)土屋恵子師葬儀(於にじのいえ信愛荘)
- 8日(月)井草教会来訪(8名)
- 10日(水)ピアノ調律
- 11日(木)スタッフ会
- 12日(金)全国教会婦人会連合来訪(27名)
- 15日(月)オルガン調律
- 16日(火)高円寺教会来訪(4名)
- 18日(木)井上医院健診
- 21日(日)秋季墓前礼拝(5名)
- 22日(月)新車納車
- 27日(土)河辺伝道所来訪(17名)
- 29日(月)誕生会・相談会
- 30日(火)A棟エレベーター大規模修理
- 31日(水)ボイラー点検

多数の説教者のご協力の下、主日礼拝を守っていますが、新たに、莊員の稲垣善子師と松本明子師が説教をご担当くださいました。

あとがき

いつもにじのいえ信愛荘を覚えてお支えくださる皆様に、第18号をお届けします。ご執筆くださいました皆様には、ご多忙の中をご協力いただき、心より御礼申し上げます。

アドベントを迎えます。この喜ばしき出来事に、主への感謝の思いを深くしています。この喜びの訪れが、まだ知らない方々にも届きますように切に祈ります。

ご在莊のお元氣なご様子だった井柳福次郎先生の突然の訃報に接し、信じられない思いをしております。

吉田トシ先生、土屋恵子先生、そして井柳福次郎先生、ご遺族の皆様が、神様の深い愛のもとにおかれていらっしゃることを信じて祈ります。(成松三千子)

編集委員会

- 長・成松三千子 (柿ノ木坂教会)
- 石井泰子 (小松川教会)
- 岸 俊彦師 (経堂北教会)
- 黒沢咲子 (下谷教会)
- 阪口和美 (金沢八景教会)
- 鈴木功男 (目白教会)